

## (和歌山県版) 肝がん診療地域連携クリティカルパスについて

肝がんは日本の悪性腫瘍死亡原因の第3位の疾患である。和歌山県においては、肝がんの死亡率が全国平均を大きく上回っており、県内の診療所、病院の十分な連携のもとに早急な対策が求められている。

和歌山県は南北に長い地形を持つという特色を持ち、肝がんの治療に関しては、少人数の肝臓専門の外科医、内科医、放射線専門医が主にながん診療連携拠点病院等（以下「計画策定病院」という。）を中心に常駐して治療を施行している。従って、患者は治療を受けるに当たり、これらの計画策定病院にて治療を受け、治療後も計画策定病院に引き続いて通院することが多かった。

肝がんは、ほとんどの症例で基礎疾患に肝硬変を合併しており、再発の可能性が高く、再発の早期発見のため頻回の通院が必要であるが、これまでは、これらのほぼ全てを計画策定病院への通院で行ってきた。

この地域連携パスは、患者のかかりつけの地域医療機関（以下「連携医療機関」という。）と計画策定病院の連携により診療を分担することで、

- 1 患者の遠方の計画策定病院への頻回の通院の負担を減らす。
- 2 連携医療機関を確保し、迅速かつ臨機応変な対応を可能とする。
- 3 計画策定病院への患者の集中によるサービスの相対的低下を防ぐ。

などの利点をもたらすことが期待される。

この地域連携パスでは、肝がんの外科的手術、内科的局所療法、肝動脈塞栓術による術後の経過観察を連携医療機関で行い、再発の有無の check を目的とした定期 follow-up を計画策定病院で行うように分担し、計画策定病院と連携医療機関の間での情報の共有ができるようにする。